

校長室から

「進路を決めるにあたって」

3年生の生徒にとって、進路を決める時期が近づいてきました。来週には、大切な試験も実施される予定で、生徒たちの表情にも真剣みが増してきたように思います。

こうしたなか、思うように点数が伸びずに悩んでいたりと、どういう高校が自分にふさわしいのかと迷っていたりする子もいることでしょう。241名の生徒一人一人がそれぞれになんらかの不安をもちながら、毎日を過ごしていることだろうと思います。

私が生徒たちに伝えたいことは、まず、将来に対する夢や希望は、あきらめずに持ち続けてほしいということです。何をやるにも夢や希望あるいは目標というものがあって初めて、そこに努力が生まれてきます。夢や希望がないという人でも、今自分の気持ちのなかで、大学に行きたい、あるいは高校を出たらすぐに働きたいという「意志」が少しでも働いていることが大事だと思います。

その上で、自分の今の学力と相談し、また先生や親のアドバイスを聞いて、3年間続けられる学校をよく調べて選び、後は合格を目指しひたすら努力を続けることです。「3年間続けられる高校」を選ぶというところが大切だと思います。決してその学校の名前や人に勧められたからという消極的な選択ではなく、3年間続けられて、自分を磨ける学校をしっかりと選んでほしいのです。

以前、82歳の三つ星シェフ小野二郎さんという方が、ある雑誌のなかで、次のようなことを述べておられました。「**仕事っていうのは、合う合わないじゃなく、こっちから努力をして合わせていくものだって**」と。いかにも苦労人の寿司職人の含蓄のある言葉だなと、その時思いました。(月刊誌「致知より」)

この小野さんの言葉を、進路選択と重ねることには多少無理があるかもしれませんが、高校も選んだ高校で積極的に友だちをつくり、楽しく充実した生活を送られるように自分から合わせていく、つまり自らが努力していくということが必要なのではないのでしょうか。

大事な事は、高校に入ることはゴールではなく、そこで自分は何をしたいのかということだと思います。どこの学校でもその気になれば自分のやりたいことは見つかるし、学力だってどんどん伸ばせます。本当に自分を生かせる学校を自分で選び、選んだからには自分が責任を持つという強い気持ちが、進路の決定では大事なことだと私は考えています。

天は、今みんなに試煉を与えてくれています。この試煉は、人生では一度は必ず乗り越えなければならないものです。避けては、いずれまた追いかけて来ます。ここは、ひとつ人との闘いではなく、自分との闘いだと思って、最後まであきらめずにひたすら努力を続けてください。あなたが最終的に選んだ道、それがあなたの生きる道だと思います。がんばってください。応援しています。

平成23年11月4日